

令和6年度東海三県二市知事市長会議

時間：2024年9月4日（水）13時20分～14時40分

場所：いつきのみや地域交流センター

事務局長（三重県 政策企画部長）

三重県政策企画部長の小見山でございます。よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして開催県の一見知事からご挨拶申し上げます。

一見知事

それでは改めまして皆さんこんにちは。三重県知事の一見でございます。

本日はお忙しい中、東海三県二市知事市長会議の開催を我々から声掛けしましたところ、お忙しいにも関わらずおいでいただきまして本当にありがとうございます。

台風10号が通り過ぎまして、先週大変な時間を我々も過ごしておりましたけれども、この会議が先週だったら中止というふうになっております。今日は台風が過ぎた後で、非常にいい天気でございます。

齋宮については、なかなかですね、ここを目的地にさせていただけるというのは難しいところがございます。本当はそうしていただきたいんですけども。今日皆さん方に初めてお越しいただいた方もおいでになると思いますけど、齋宮の歴史を学んでいただけたのではないかなというふうに思っております。

先ほど「牛車（もうぐる）」ですね、グリーンスローモビリティに乗っておりましたときに、古田知事から、「こういうところは外国人が非常に喜ぶますよ」というふうにおっしゃっていただいて、私どもとしてもですね、非常に喜ばしく意を強くしたところでございます。

これからしっかりと観光も力を入れてやっていきたいと思っております。

この会議は観光だけではなく、各県、それから各市ですね、それぞれの連携を行うために開催をさせていただけるものだと私は承知をしております。

また、先進的な取組をやっておられる他の県市の皆さんから状況を教えていただく連携と、ベストプラクティスを共有するための会議というふうに思っておりますので、1時間ちょっとでございますけれども、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

事務局長

本会議の開催地であります明和町の下村由美子町長がお見えになっております。

一言ご挨拶を頂戴いたします。

下村明和町長

皆さんこんにちは。地元明和町の町長の下村と申します。今日は私の故郷によろそお越しいたいただきありがとうございます。

実は私、この齋宮で生まれ育ちました。

ここの前にある平安の杜 10 分の 1 復元建物の件で整備していただいたんですが、その土地の持ち主が実の父親でして、すごく子供のころは本当に田園風景で。史跡齋宮跡は 137 ヘクタールあるのですが、その中に 2000 人の人たちが、私たちも含めて生活をしておりまして、本当に史跡とそれから生活、なりわいと共存しながらですね、いろいろなまちづくりを考えております。

今日いろいろお話を聞かせていただくのを、また参考にさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。今日はようこそ、ありがとうございます。

事務局長

ありがとうございました。それではただいまから会議を進めて参りたいと思います。

会長座長につきましては慣例により開催県の三重県知事とさせていただきます。

本日の会議につきましては、記者会見等の都合もございますので、14 時 30 分の終了を予定しております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは一見知事よろしくをお願いいたします。

一見知事

はい。それでは限られた時間でございます。1 時間 5 分程度でございます。

議題も盛りだくさんでございまして、早速議事に入らせていただきたいと思います。

当初予定をしておりました議事に付け加えた議題から進めたいと思います。

冒頭申し上げましたが、この日曜日までですね、月曜にかけまして、この地域を台風の被害といたしますか、対応に追われました。台風 10 号の対応についてですね、皆さんからお話をいただきたいと思います。

まず私の方から、三重県の対応状況についてお話をさせていただきたいと思います。

お手元に右肩に三重県と書きました台風 10 号の被害対応状況についてという 1 枚紙があらうかと思っておりますのでご覧いただければと思います。

まず台風 10 号、ご案内のように、紀伊半島を直撃するというルートが最初予報されましたけれども、それとは違う九州に上陸をするということでもございましたけれども、三重県におきましてもですね、三重県の観測史上 2 回目の線状降水帯が発生をいたしまして、様々な警報が出されたところでございます。

また三重県の中の松阪市と大台町の 2 つの自治体で、県内で初めて緊急安全確保が出されたわけでございます。

多くの自治体でですね、8 月月間の降水量を、わずか 2 日から 3 日で 2 倍あるいは 3 倍の降水量ということでもございまして、土砂崩れ、それから河川の護岸損傷といったものが、県内で広く確認されております。

対応としましてはですね、一番、雨が降りましたのが、31 日の土曜日でもございましたが、8 月 30 日の金曜日から 9 月 2 日の月曜日にかけて、三重県では災害対策本部、関係会議、これを 5 回開催しています。

したがいまして、金曜日に1回、月曜日に1回やっておりますので、土日の3回開催をしたということとございまして、昨年、三重県ではですね、オペレーションルーム、シチュエーションルームというものを作りました。

今回初めてシチュエーションルームでマスコミの人に入ってもらって、河川カメラなどを見てもらいながら、台風の状況を確認し、対応を議論したというところでございます。

また、県内8市町に緊急派遣のリエゾン県から送り込んだところでございます。右側を見ていただきますと、写真がございますけれども、このような状況が出てきたということですが、幸いなことに、県民の皆さんの協力もありまして、死者はゼロ、軽症者2名ということでございます。

今後の対応でございますけれども、台風10号の振り返りは、やらなきゃいけないんですが、特にですね、今回直撃を受けられたところにお伺いをして、様々な情報を得て、今後の対応に、直撃を三重県が受けた場合に備えていきたい、こう考えておるわけでございます。

三重県からは以上でございます。

この件につきまして順次ご発言をいただきたいと思っております。岐阜県さん、愛知県さん、名古屋市さん、浜松市さん、この順番でご発言をお願いしたいと思います。

まず、古田知事お願いいたします。

古田知事

はい。岐阜県資料を1枚用意させていただいておりますけれども、今回の台風10号の特徴は進路予測が困難、それからルートが大変不規則である、そして集中豪雨ということで、短期間で急激に危険度が高まるというのが特徴でありまして。対応のスピードが求められるということで、早めの避難行動を初めとしてですね、スピード感を持って対応するということを心掛けた次第であります。

8月29日に、副知事を中心とする第一非常体制、31日に第二非常体制、これは知事中心でございますが3年ぶりの緊急安全確保を発令し、また大垣市と池田町については災害救助法を適用するというところでございます。

右の方に写真がございますが、岐阜県では、西濃地域中心で、この4つの市町が、河川氾濫、家屋の浸水被害、道路冠水といったことが起こっております。幸い人的被害はゼロ、土砂災害もゼロで、もっぱら浸水被害にかかるものでございました。

今後さらに調査を進めていきますが、今回の被害対応状況と、それから能登半島の地震支援のいろんな経験、そういったことを踏まえて、現在私ども岐阜県の、強靱化計画を見直そうということで、今回の台風についても、そういう意味での検討材料にしていこうということで取り組んでるところでございます。

以上です。

一見知事

はい。ありがとうございました。

それでは大村知事お願いいたします。

大村知事

はい。それではですね私ども愛知県からも発言させていただきます。

その前に今日はですね三重県さん一見知事さんはじめ皆さんお取り計らいいただき本当にありがとうございます。

齋宮の存在はわたくしも知っておりましたが、なかなか来る機会がなくて、今日は大変歴史の詰まった素晴らしいものを拝見させていただきましてありがたい限りでございます。

これだけ大きな規模感というふうに思っておりませんでしたので、すごいと思わせていただきました。ありがとうございます。また多くの皆さんに見ていただければと思います、ありがとうございます。

さて台風 10 号でございますがですね、愛知県の方も、九州、四国そしてこの東海地域ということで来た台風 10 号、大変多くの雨が降りました。

最大雨量、降り始めからの降水量は新城市富沢で 653 ミリを記録するなど大変大きなものになりました。

でもってですね、大変残念なことでございますが 8 月 27 日の先週火曜日午後 10 時過ぎに、蒲郡市の竹谷町というところで土砂崩れが発生をいたしまして、住宅一棟が巻き込まれる被害となりまして、家族 5 人が生き埋まったということでございます。

私も直ちにですね、その夜のうちに、自衛隊の災害派遣要請を行い、豊川駐屯地から 30 名の隊員に急行していただきました。

また、消防本部では県内 23 消防本部 320 名が救助活動にあたっていただき、警察から 120 名動員をし、救助活動を行いました。2 人は何とか救出をできましたが、3 人亡くなるということで、心からお悔やみを申し上げたいというふうに思っております。

また状況をしっかりと検証し、二度とこういった事が起きないようにしっかりと対応をしていきたいというふうに思います。

なお私ども 27 日火曜日の午前 6 時過ぎから災害対策本部を設置し、ずっと 24 時間 220 人体制の監視体制を県庁の職員だけでとり、豊橋市初め 19 市町村に災害救助法の適用も決定をさせていただいたところでございます。

現在調査をやっているところでございますが、蒲郡市のこうした被害の他、新城、田原など、東三河の方で住家被害でありますとか、道路損壊、農地そしてまた林業などでも被害の発生が一部確認されておりますので、しっかりと把握をして、速やかに復旧復興をしていきたいというふうに思っております。

ということでございます、私から以上です。ありがとうございます。

一見知事

どうもありがとうございます。

それでは続きまして名古屋市の河村市長さんお願いします。

河村市長

はい名古屋でございます。今日はありがとうございます。

台風 10 号ですけれども、被害に遭われた皆さんには、ぜひお見舞いを申し上げます。

珍しくコースが、予想と外れましてですね、始めは伊勢湾台風と同じということでしたから。伊勢湾台風を経験しておるのは、僕と古田さんだけではないかと思われるけど、あれは僕小学校の5年生のときですが、全体で5000人ぐらいの方が亡くなったということで、伊勢湾台風がきっかけになって災害対策基本法ができたということをございまして、同規模ではないかというふうに言われとったんですけども。珍しく予報が外れまして、西の方へ行ったということですけども。

伊勢湾周りに住んでいる人たち、伊勢湾台風と本当に同じものが来た場合ですね、高潮の想定が難しいですけど、そこでどういうふうに、今のところ僕は名古屋では言ってるんですけども、全く同じものが来たらどうだと。水の一滴も堤防の内に入れないで済むかと、一滴も入れないで済むと力んでおりますは、一応、名古屋港。でだけど、ぜひ皆さんと一緒に、そういう気持ちで大体対応ができておれば一人も犠牲者を出さずに済むのではと思っておりますので、どうでしょうかということをご提案申し上げます。

ありがとうございます。

一見知事

はい。ありがとうございました。

それでは最後に、浜松市の中野市長お願いいたします。

中野市長

はい。浜松市でございます。

今日は一見知事をはじめ、三重県の皆さんには大変お世話になりましたありがとうございます。

浜松市の台風10号の状況でございますけれども、お手元の資料、縦紙のものを用意しておりますけれども、当初の予報では、我々浜松あたり台風直撃ということ想定して、8月26日から市内の体制を整えていたわけでありまして、台風自体は大きく進路を逸れましたが、我々8月26日からですね、9月2日までずっと継続して、雨に降られまして、累積降水量で言うと記録的な大雨となったところでございます。

そういった中で今回大雨洪水警報をはじめとする警報はですね、ずっと出っ放しだったというのもありまして、我々の方でも危険区域における避難指示をはじめとする避難情報、これをずっと出しっ放しにどうしてもなってしまった、そのような状況でございます。

幸いにして人命に関わるような被害はなかったわけでありまして、資料2ページ目にあります通りですね、土砂災害などが発生をしております。

我々の場合はですね、こういった土砂災害について県ともしっかり連携をとりながらですね、救急対策をはじめとして、応急対策・応急復旧、こういったことを今後進めていきたいと思っておりますのでございます。

以上です。

一見知事

はい。どうもありがとうございました。

それぞれの県市で対応していただいたわけでございます。これから振り返りをおそらくされると思います。冒頭申し上げました、連携というのは非常に重要だと思いますので、各県、各市で振り返りをされたものをですね、それぞれ共有をさせていただいて、次の災害に備えたいと思います。

ありがとうございました。

それでは、本来の議題に入っていきたいと思います。

今日は3つの議題で議論をさせていただきたいと思いますが、まず1点目でございます。

「スポーツを活用した地域活性化について」議論をさせていただきたいと思います。

これは浜松市さんからのご提案でございますので、中野市長様4分程度でご説明をいただきたいと思っています。

中野市長

はい。ありがとうございます。

それでは我々の方からスポーツを活用した地域活性化についてということで話題提供させていただきます。

今パリオリンピック・パラリンピックの真ただ中でございます。先に閉幕しましたオリンピックでも海外で開催された大会における日本のメダル数過去最多ということで大変盛り上がった。我々浜松もですね、浜松出身の橋本壮市選手。男子柔道73キロ級でありますけれども、個人で銅メダルまた団体で銀メダルということでパブリックビューイングなどもやりましたけど、大変な盛り上がりを見せたところでございます。

このスポーツの持つ力というのを、これをですね改めて感じるこのオリンピック・パラリンピックだったと思っております、これがまた4年後のロスですか、というのではなくてですね、2年後には、アジア大会、アジアパラ大会がこの地域でございますので、是非ともそれに向けてつなげていければというふうに思っているところでございます。

ついては今現在ですね、各県市で取り組まれているようなスポーツに関する取組、これについて情報共有させていただきつつ、我々浜松もですね、アジア大会のときにはアーティスティックスイミングの会場を提供させていただくことになっておりますので、この地域一丸となって、スポーツでもって、地域の活力、結びつけていけたらなと思っているところでございます。

お手元資料のですね1ページめくって、1ページってところを今見ていただきますと我々浜松市は政策の柱として「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」という3本柱で、特に最近力を入れておりますがインクルーシブスポーツ、それからスポーツコミッション、あとビーチ・マリンスポーツというところに力を入れております。

2ページをご覧くださいます。インクルーシブスポーツということで、年齢、性別、国籍、障害の有無、そういったものにとらわれないでみんなが楽しめるスポーツをと。

それから次の3ページ目いきますとスポーツコミッションということで、ビーチサッカー、それから

諸外国のサッカーチーム、あるいは水泳の飛び込み、そういった合宿等の誘致というものを進めているところでございます。

さらに4ページ目参りますと、スポーツコミッション、我々東京2020大会のときはブラジルのホストタウンということをやりましたので、いまだにブラジルのスポーツ界では繋がりを持って取組を進めているところでございます。

そういった中にありまして最後のページ5ページでございますけれども先ほど申しました通り、我々ですね、古橋廣之進記念浜松市総合水泳場、こちらを舞台に、アジア大会の際にはですね、アーティスティックスイミングを開催していただくということになっているわけでございます。

ぜひこれを1つのきっかけに、スポーツでもって、地域の連携そして連携した上での地域活性化を図ればというふうに思っているところでございますので、是非とも今後ともよろしく願いをいたします。

まず私どもからは以上でございます。

一見知事

はい。どうもありがとうございました。

それではこの件につきまして順次皆さんからご発言いただきたいと思えます。発言順は岐阜、愛知、三重、名古屋という順番でお願いしたいと思えますが、ご発言は時間の都合上、2分30秒ということをお願いをさせていただきたいと思えます。

また発言の終了時間が近づきますと、今回からちょっと導入させていただきましたが、全国知事会と同様に、お手元に紙が参りまして、「あと30秒です」というようなことを言われますので、すいません。

びっくりされないようお願い申し上げます。

それでは、古田知事からお願いを申し上げます。

古田知事

ちょっと申し遅れましたけれども、今日は三重県さん、おもてなし大変ありがとうございます。素晴らしい地域の観光資源に感銘を受けました。実は天武天皇の誕生の前主の争いは壬申の乱。この戦いを決定づけたのは不破関の戦いなんですね、天下分け目の戦いは岐阜県でということですが、これは関ヶ原だということなんですから、史上最初の天下分け目の戦いはこの壬申の乱でありまして。この戦いの場も関ヶ原にある不破関ということで、そのあたりから、この斎宮と、それから岐阜県の西側の地域ですね、連携・広域観光交流みたいなこともですね、考えられるのではないかと。そんなふう感じながら、拝見させていただきました。大変ありがとうございました。

さて、スポーツにつきまして、私どもは平成24年にぎふ清流国体がありました。そのあとですね、アジアジュニア陸上(競技選手権大会)、それから日本スポーツマスターズ、ジャパンパラ陸上(競技大会)、それから来年はねりんピック(岐阜2025)でございますが、様々な大規模な大会を誘致しまして、そしてそのレガシーをどう地域の活性化に生かしていくかという問題意識で臨んでおります。

資料には一例として、ホストタウン交流ということで、東京オリンピック・パラリンピックでカナダ、

そしてポーランドとのホストタウン交流がありましたが、それぞれを契機に、交流の覚書を結びですね、その後も様々継続しているということで、ホストタウン交流が国際交流の契機に繋がってということでございます。

それからアジア大会・アジアパラ競技大会につきまして。私どもは、ホッケー、サッカー、ボートを、会場を用意させていただいております、これもまたこのレガシーを生かしていきたいと思っております。

それからあと、F C 岐阜の地域活動はですね、年間 500 回以上やっております、こうしたスポーツチームの地域活動、それからホームタウンっていうのは、これ F C 岐阜の場合は、県プラス全 42 市町村が全部ホームタウンです。そういう意味での地域の盛り上げにしておりますし、金メダリストの高橋尚子さんのぎふ清流ハーフマラソン、それから平泳ぎの金藤理絵さんのメモリアルカップということで、メダリストを顕彰しつつ、これを中心にスポーツで様々な地域の人々との触れ合いを創出している。

さらにそこからシドニーマラソン、それからハーフ世界一のバンセンハーフマラソン、これはタイにあります。そういったところの国際交流のスタートということで、レガシーということで広がりのあるスポーツの活用ということに取り組んでおるということでございます。

以上でございます。

一見知事

ありがとうございました。それでは大村知事お願いいたします。

大村知事

はい。ありがとうございます。

それでは資料をご覧くださいながらお聞きをいただきたいと思っております。まずはですね、このスポーツを活用した地域活性化の取組ということで 1 ページでございますが、第 20 回アジア競技大会・第 5 回アジアパラ競技大会は、2026 年 9 月から 10 月に開催ということでございます。

去年中国まで行って大会旗をいただいてきたということで、しっかりと盛り上げていきたいと思っております。

なお、競技の多くは愛知、名古屋で開催するということですが、既存の施設を最大限有効活用するという方針のもとで、岐阜県さんには先ほどお話いただきましたがローイング、サッカー、ホッケーを、浜松市さんではアーティスティックスイミングをお願いし、また三重県さんにもサッカーの練習会場といったことで、今調整を進めさせていただいております。

また水泳、馬術は東京で、自転車競技は伊豆ベロドロームをお願いをさせていただいております。また、サッカーの会場、どうしてもたくさん必要ですので、大阪・兵庫・京都と関西各府県にもお願いをさせていただいております、広域でしっかりやっていきたいと思っております。

なお、両大会開催に伴う地域経済の活性化、全国への経済波及効果は約 2 兆円というふうにも試算されております。今回オールジャパンで盛り上げたいと思っております。

そして続いて、資料の 2 ページをご覧くださいまして、他にも、やはりモータースポーツを盛り上げ

るということで、FIA 世界ラリー選手権ラリージャパンを、今年の 11 月、また 3 月には半年ずらして RALLY 三河湾ということで開催をいたしております。

また 3 月にはマラソンフェスティバル、名古屋ウィメンズマラソン。

それから IG アリーナが来年オープンしますので、来年 2025 年 12 月には、同じアリーナにおきまして、ISU グランプリファイナル国際フィギュアスケート競技大会 2025 を開催するというので、これも盛り上げていきたいと思っております。

また 3 ページに、今、名古屋市さんの大変なご協力をいただいて、名城公園の中に、坂を下りたところに、日本最大級アジア最大級の IG アリーナを建設中ということでございまして、愛知県と NTT ドコモで協力して、来年 3 月には完成しますので、来年の（大相撲）名古屋場所でこけら落としということで、しっかり盛り上げていきたいと思っております。

次、最後 4 ページは、あいちスポーツイノベーションプロジェクトということでこれは愛知県、中日新聞さんと組んで、スポーツの成長産業がまた、そのスポーツチームの強化、それからですね、障害者を巻き込んだコンテンツの開発など、そうしたものも取り組んでいきたいというふうに思っております。

以上です。

一見知事

はい、ありがとうございます。それでは続きまして三重県の方からご報告を申し上げたいと思っております。

三重県資料と書いたスポーツを活用した地域活性化の資料をご覧いただきたいと思っております。ページを 1 枚めくっていただきますと、大きなトピックス 3 つ、私どもから書いております。

まず競技スポーツの推進ということで実は昨日ですね、オリンピックで金メダルを取られた藤波朱理選手でございますけれども、県庁にお伺いいただき賞を渡したところでございます。

その前には卓球の戸上選手、それからフェンシングの山田選手もおいでをいただいたところです。また、パラリンピックではですね、伊藤選手、最年長というふうにならわれてまして 61 歳。銅メダルを陸上競技でお取りになられたということでございまして、かなり県ゆかりの選手出身の選手が活躍しているところでございます。

また、令和 17 年に、残念ながら 2021 年に開催する予定でございましたとこわか国体、障害者スポーツ大会が、コロナの関係でできませんでした。しかしながら 2 巡目の最後ということになります。2035 年にですね、国民スポーツ大会を開くということが決定、内々定ですが決定をしたところでございまして、これを受けてしっかりやっていきたいと思っております。

それから 3 番目でございますが、2021 年の国体できなかったですがそのレガシー、会場などを使いましてですね、様々な大会を誘致をしておるところでございます。また、先ほど大村知事からお話いただきましたが、アジア大会・アジアパラ大会にもご協力をさせていただきたいと思っております。

次のページでございます。議題でございますが様々なスポーツイベントを行っております。例えば、ここ今年度で 18 回目になりますが、対抗駅伝、それぞれの 29 の県内の自治体が力を競うということでございますけれども、駅伝をやっておりますし、スポーツフェスティバルですとか、或いは障害者のス

ポーツ、これは中野市長からお話いただきましたが非常に大事なところでございまして力を入れております。

さらにこれありませんけれども、三重県ではモータースポーツという意味では、年に1回F1が開催をされております。右でございすけど、なぜスポーツを振興するかというところですが、効果の1つとしてはやはり、県民の皆さんに健康づくりをしていただきたいというところでございます。

これ見るところが健康マイレージとございすけども全29市町で、全市町が参加をしております、市、県民の方に登録をいただきまして、ポイントをお渡しすることにしてございます。例えばどのぐらい歩くとかですね、そういったことで決められたことをやっていただくポイントを付与します。そうしますと、下にありますような様々な特典がございす。

こういったことも進めているところでございす。

私からは以上でございすそれでは、河村市長よろしくお願ひ申し上げます

河村市長

はい、名古屋でございす。

先ほど話ありましたけどアジア・アジアパラということで、いろんな競技施設ですね。

私もアジア・アジアパラに限らんですけどやっぱり野球、サッカー場まだ少ないと名古屋市内で。

普通の方が、なかなか競技をやっていくのにグラウンドがないというのをよく言っております、

これを機会にというのもおかしいですけど、川の河川敷とかですね、ああいうところを利用しながら、おおいにどえりゃ作っていかうと、特に野球、サッカー、割と高校生ぐらいのところも言ってきますね。

実はグラウンドがないんだということを言っておりますので、それをやっていきたいと。

それからこの間、アジアパラのときの、アドバイザーパネルといいますか、何か諮問会議のようなところから、正式にやっぱり子供、子供さんをもうちょっと盛り上げるという会したらどうだということがありました。

とにかく名古屋でもそうですけど受験勉強ばかりやされてですね。やっぱり元気が封じ込められとるよねこれ、日本の子供は。

1人の子も死なせない名古屋とやっておりますけど、これなかなか実現されておられません。

残念ながら、その子供さんたちが、自殺しちゃっている。いじめはありますけど、やっぱりもっと成績とか進学が多いんですよこれ。そういうことで、ぜひ、子どもさんたちを、ちょっと楽しく盛り上げる。

アジア・アジアパラができないかと、そんなことで今盛んに指示しとるところでございす。

あとはいろいろ書いてありますけども、その辺が特色あるところでございす。

以上です。

一見知事

はい。どうもありがとうございました。

今ご発表いただきましたけれども、何かそれに付け加えてご発言がおありの方はおいでになられます

でしょうか。

よろしゅうございますか。

ありがとうございます。

それでは私の方でまとめをさせていただきたいと思えますけれども、中野市長からご提案をいただきました。

スポーツの地域、活性化の関係でございますが、それぞれの主体で、地域振興のためにスポーツを活用されておられる状況がよくわかったと思います。

例えばメダリストの方の名前を冠した大会を行ったり、或いは様々な施設を作って、県民・市民の方に使っていただくような対応をとられている。

また、大事なのは、インクルーシブスポーツですね、障害のある方々も健常者と同じように、競技を楽しんでいただく、そういった取組をしてもらえるとというふうに思っております。

また河村市長からお話いただきました子どもさんにスポットをあてて、スポーツを楽しんでいただくようなことも非常に重要であるということでございます。

全体を通して申し上げますと、愛知県さん、開催されます名古屋市さんも協力されている。

それから他県です、岐阜県さんも。私どもそれから浜松市さんも協力されるアジア大会、それからアジアパラ競技大会。これに向けて力を結集していこうと。

いうことであつたかと思えます。

本件につきましてはそのような取りまとめでよろしかったでしょうか。

はい。ありがとうございます。

それでは、ちょっと端折った感じになって恐縮でございますが、2番目の議題に入っていきたいと思えます。

2番目の協議議題はですね、地域公共交通の維持活性化についてでございます。

これは私の方から提案をさせていただいておりますので、協議話題2というふうに書いてございます。表面に写真が載っておりますこの資料をご覧になっていただきたいと思ひ、私の方からご説明申し上げます。

この写真でございますけれども、7月31日で真ん中に岸田総理が写っておられます。

その横はですね、多気町という三重県の中の真ん中にある町の町長でして、その横には先ほどご挨拶をいただいた明和町の下村町長も写真に写っておられますけれども、ここにあります、5町の首長さんに来ていただきまして、岸田総理には多気にヴィソンという場所がございます。みなさん別の会議でおいでになっていただいたところでございますけれども、ここにあります自動運転のバスですね、エストニアで造って制御しておりましたけれども、日本のものを多数使いまして今、実験をここヴィソンという場所で複合観光施設ですが、ここで実験をしている模様を見ていただきました。

これはデジタル田園都市の予算で実験をしているところでございます。

ページをめくっていただきますと、公共交通、今大きな課題になっております。

三重県では、年に1回ですね、大体12月末から1月にかけて、1万人の県民アンケートというのを

毎年やっております。

去年の末から今年にかけてやりまして、何か不満はありますかと言うことを聞いておりますけれども、いいところも聞いてますが、一番の不満はですね、移動手段、交通の便利さが無いというところがございます。

これが50%、ワースト1でございました。

若い人は我々の頃と違って車を買って移動するということがなくなってきたようでございまして、公共交通を使いたいけど不便だということです。

他方、右を見ていただきますと、公共ライドシェア、これかつて自家用有償制度と言われております。助け合い、ボランティア輸送でございまして、これ中山間地では、これがないとなかなか移動できないんですけども、これを実施してるのが三重県29市町の中の9つにとどまっているということでございましてまだ理解が不十分だということでございます。

我々県としましては、令和5年度、昨年度からですね、地域交通を専門にする課を作っております、地域と一体となって、地域交通の維持に努めているところです。

また所管部局、地域連携部という部ですね、交通というのを足しまして、地域連携・交通部という名前にして交通の強化をしてきました。

これは私が以前勤めておりました、運輸省の問題なのかもしれませんが、運輸行政というのは、県を經由して実は行政あまりやってなかったんです。

運輸省から地方運輸局、そして各自治体という形で進めておりましたので県が力を使ってなかったところがありますが、もう今、県の大きな交通課題が出ておりますのでしっかりやっていかなければいけない、そういう意味では、中部運輸局と私ども共同しまして、自治体に様々な会議、或いは訪問し、ノウハウの伝授をさせていただいています。私共も学ぶことが多いです。

次のページご覧いただきたいと思っております。市町の取組、財政支援などもやらさせていただいております。今年度、ここにございますが、鈴鹿市・志摩市・南伊勢町、ここを重点地域としてそれぞれ、やや都会の鈴鹿市、それから過疎が進みつつある南伊勢町、そしてその真ん中あたりの観光客の多い志摩市、それぞれ違うタイプの地域ということで、どういう交通がフィットするのかというのを調査しております。

ここで得られた経験を他のところに、広げていきたいと思っております。

またさらにその志摩市でございまして、夜、タクシーが不足をしております。

したがって、いわゆるこれは日本版ライドシェアで、自治体版ライドシェアではありませんが、タクシーですね、追加的な補完的なものとして、7月22日に日本の第1弾としてですね、やらせていただいたところです。今、その結果どんな効果があったか集計してるところでございます。

右側にありますのは公共ライドシェアです。9つしかやっておりませんが、これ広げていかないと駄目だと思っておりますので、私どものノウハウを蓄積し、アドバイスを自治体の皆さんにさせていただきたいという風に思います。

ドライバーは、例えばシルバー人材の方とか、町の職員がドライバーをやります。

車は町の公用車を使ったり、或いは県と町の財源で購入するというような形で。こういったものをつくり出しているところでございます。

先ほど申し上げた通りでございますけども、今後また展開をしていきたいという風に思っております。それでは、本件につきまして、まず、浜松の中野市長様から1人2分30秒程度でお願いします。

中野市長

はい。浜松市です。

お手元資料をまず1ページ目ご覧をいただきまして我々浜松なんですけれども、非常に広域にございまして、市町村で言うと岐阜県の高山市の次に面積の広い市、それが我々浜松市となっております。

そういうこともありまして、公共交通のですね、中心市街地と、それから周辺市街地、さらに中山間地と、この3つに区分をしてですねそれぞれの特性に応じて、あるべき姿を考えているところでございます。

また加えて次の2ページご覧いただきますと浜松市、昔から自動車やオートバイの町ということもありましてですね、公共交通の分担率が非常に低いという状況にございまして、そういった中にありまして、これから高齢化が進む、免許返納ってというようなことも出てきますので、公共交通をどうしていくかっていうのは非常に課題になっているところでございます。

とりわけ、次の3ページなんですけれども、我々天竜区をはじめとする中山間地域、ここにおける公共交通の維持確保、これが最大の課題となっているところでございます。

現在中山間地域等におきましては自主運行バス、地域バス、さらには、交通空白地有償運送、そういったことに取り組んでいるわけでございます。

また次の4ページに参りますと、浜名湖周辺の沿岸ですね庄内地域におきましては、共助型交通、いわゆるライドシェア、こういったことにも最近取り組ませていただいているところでございます。

いずれにしても非常に人手不足というようなこともございまして、なかなか公共交通維持が難しい部分もございまして、次の5ページでありますけれども、今年度、国の補助メニューでございまして共創・MaaS実証プロジェクト。

これを使わせていただきまして、公共交通維持に向けてですね、人材育成をはじめとする検討、研究、そういったものを進めることとしているところでございます。

私からは以上です。

一見知事

はい、ありがとうございました。

それでは続きまして河村市長さんお願いいたします。

河村市長

はい。名古屋でございしますが、名古屋は自慢にもなりませんけど、都市の道路面積が、日本一でしょ確か。戦後めちゃくちゃな都市計画をやりまして、8メートル以下の道路はつくらないとかいうことで、私は自分で歌つくって、ああ固定資産税、みんな道路になっちゃって固定資産税だけは徴収だと。

もうずっとそういうことございしますが、それでも公共交通空白地というものありまして、鉄道駅へ

は 800 メートル、バス停へは 500 メートル以内でアクセスできないところあります。それは丁寧に対応をしております。

それから一遍乗られたことあるかないか知りませんがガイドウェイバスというのがありまして、これはよそのところはないと思いますけどね。高架にしましたところ、バスの専用道路にすると、いうことですが、これが非常に画期的だったんだけど途中でぶつと切れておりましてですね、便利状況で終わっていると。いうことで何やっとなだと、いうことですから、これが走るバスがなんか特殊ですね。

まず、バスを降りて、ずっとそのままいけばいいんですけど、降りても走れるようにすると、バス自体を違うものにしないといかんということで。今、そういうテクニックの、バスの改良が行われるということでございます。一遍よかったら見に来ていただけますと、日本中で名古屋しかないですけど、どこにも広がっていないと。歴史遺産じゃないけれども。

それから、中央分離帯の横の中央走行型の、あれも名古屋市しかないみたいですね。

1 番真ん中の路線をバスが走っているということですが、だからバスの左側のところ、右折車両はまっすぐ走るやつの先を行かないかん、どえらい危ないですけど。インドネシア行ったときに、ジャカルタの人なんか、いや名古屋のものまねでやったんだけどあんたんとこ全然ひろがっとうせんでいかんがやと言われましたけど、ぜひ、一遍見に来ていただくと、チャレンジとしては非常にいいかな、いうことでございます。

都市部でのものとか、シェアサイクルとか、いろいろ努力をしております。

以上です。

一見知事

ありがとうございました。

それでは続いて大村知事お願いいたします。

大村知事

はい。それでは愛知県の「地域交通の維持活性化」の取組という資料ご覧いただきながら、ご説明します。

まず資料 1 ページは、公共交通の状況でございまして、東海道新幹線、JR、名鉄、また民間バスを中心とした体系が載っております。

2022 年 2 月にあいち交通ビジョンを策定し、今年 6 月に、愛知県地域公共交通計画というのを作らせていただき、取り組んでおります。

そして 2 ページがリニア中央新幹線ということでございまして、名古屋駅のスーパーターミナル化、それから名古屋駅豊田市間の速達化などに取り組んでおります。

それから 3 ページは鉄道ネットワーク及び乗合バスの維持充実ということで、ホームドア設置事業、JR 名古屋駅、金山駅、近鉄名古屋駅等で進んでおりますが、JR 刈谷駅のホームを拡張して、ホームドアを作るということも取り組んでおります。そのほかにも、バス運行対策補助金なども進めております。

それから 4 ページが地域交通の活性化。MaaS、AI オンデマンドそうした機能の実証実験などもやっ

ております。

それから自動運転、5 ページでございいますが、自動運転の実証実験を中部空港島ですとか、あとモリコロパーク万博公園の中、そして今年の秋にですね 10 月末、STATION Ai スタートアップ拠点がオープンしますので、名古屋駅と鶴舞、STATION Ai を結ぶ自動運転を実証的にやっていきたいというふうに思って、事業を進めているところでございます。

それから、日本版ライドシェアというのも、先ほど三重県さんから話がありましたが今、名古屋近隣で進めているところでございます。それから最後 7 ページですね、愛知県と人口減少局面にある市町村と一緒に、今年 5 月に、愛知県・市町村人口問題対策検討会議を作りましたが、その中でワーキンググループに農林水産業振興、空き家の活用、それに加えて、地域交通の確保、基本はライドシェアになってくると思いますが、そうしたことの協議を進めておまして、ライドシェアとかそういったものに、人口が減ってくるようなところは、取り組んでいかなきゃいかんと思っていますので、取組を進めていきたいと思っております。

以上です。

一見知事

ありがとうございました。

それでは最後に古田知事お願いいたします。

古田知事

岐阜県資料をご覧くださいますと、私ども令和 4 年に地域公共交通計画を作しまして、問題意識としては公共交通の利用者が減少してきておると。結果、維持困難ということで、少子高齢化もございまして。また、自動車依存が非常に高い。

とはいえ、一方で高齢者の免許返納が急増しておまして、交通弱者の足を守るという観点からの公共交通ということで、下にありますような 3 つの方向で作業を進めていくということで、広域交通、地域内交通、それから交通手段そのものが効率化、利便性向上ということでございます。

次のページに具体的にやっておりますことのご紹介をしておりますけれども、1 つは、新しいモビリティサービス導入への支援ということで、AI オンデマンド交通、MaaS 等の導入に向けた実証試験なり、調査研究について、中山間地と、それから平野部、都心に近いエリアとそれぞれ、特徴を見ながら検討し、実証試験等やってく、そういうことでございます。それから特に恵那市では、市内の各交通機関を一体的に案内する交通コンシェルジュサイトというのものも、活用してると、そういうことでございます。

それからバスの運転手不足対策として、1 人当たり最大 50 万円かかるという大型 2 種免許の取得について、支援をするということ。

それから点呼にまつわる業務が結構人手がかかったということで、これをシステム化するということで。運転業務への増員、こういったこともきめ細かくやろうとしております。

それから日本版ライドシェアでございいますが、すでに 7 事業者 11 営業所が許可を獲得して、そのうち 2 事業者がすでに運行中ということでございます。

それから自動運転であります、県とそれから5つの市が共同で、観光利用、或いは買い物、通院等の生活事情に合わせて、通信環境でありますとか、危険回避行動の精度でありますとか、いろんな面で課題調査を実施しているというところではありますが、来年以降、実証実験に移る、この話題については以上でございます。

一見知事

はい。どうもありがとうございました。

これで各自治体からの発表というのは終わりでございますけれども、今ご発表いただいた件などに関しまして、追加の発言、ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございました。

それでは私の方でまとめをさせていただきたいと思います。

それぞれの自治体で、例えば、MaaS でございますとかAI でございますとか自動運転などについても取り組んでおられるということでございますが、先ほど古田知事からもお話いただきましたけれども、名古屋の中心部を除きますと、それぞれ自動車依存が非常に大きな地域だというふうに思っております。

従いまして、高齢化をしていきますと、なかなか自分で運転することが難しい。

そこに対してどう公共交通を提供していくかっていうのが、我々の共通した課題だということだと思います。

浜松市さんでは、結構早いタイミングで、バスの再編を進められました。

市営バスを民間に移譲されまして、オムニバスタウンということですね、先進的な取組をされておりますが、その中心部以外のところもですね先ほど市長からお話いただきましたけれども、公共ライドシェアを展開されると、いうようなことをやっておられるわけでございます。

また、名古屋がガイドウェイバスという日本ですね、非常に珍しい交通体系を作っておられますし、さらに先ほど河村市長からご発言いただきました基幹バスですね、名古屋の中央の交通を担っておりますけれども、そういったものを作っておられますが、その名古屋であっても交通空白地帯があるということでございまして、ライドシェアなどを取り組まれる、ということでございます。

また愛知・岐阜からもお話をいただきました。これからこの地域の中でですね、様々な交通に関する課題が出てくると思います。また、それに対して、公共ライドシェアをはじめとして、取組をそれぞれ進めておられるところですので、これそれぞれの課題、それをどう対応していくか、さらにまた課題が出てくるわけでございますので、情報共有を進めさせていただきたいというふうに思っているところでございます。

以上のような取りまとめでよろしいございましたでしょうか。

ありがとうございます。

それでは最後の議題になります。私の方から提案させていただいております。

ちょっと三重県から提案させていただくのは恥ずかしいところでございますが、「国内外からの戦略的な観光誘客及び観光地づくりについて」でございます。これについて提案しております私の方から先にご説明をさせていただきたいと思っております。

「協議話題3」というところをご覧くださいと思います。なぜ恥ずかしいかということでございますが、三重県はインバウンドのコロナ前と比較した回復率が6月の数字だったかと記憶しているが、全国47都道府県の中で、47番目という数字でございます。

これはこれから何とかしていかないといけないわけございまして、皆様と一緒にですね、連携した周遊型の観光を進めていきたいと考えておるところでございます。

2ページをご覧くださいと思います。三重県ここにありますように皆さんの市あるいは県もそうだと思いますが、様々なですね、外国人だけではなくて、国内の観光客、めぐっていただく場所がたくさんございますし、この齋宮もそのうちの1つでございますが、それから、おいしい食べ物ですね、伊勢志摩の業界、それから松阪牛、それから三重の地酒ですね、こういうのがたくさんあるわけでございますけれども、もっともっと多くの方に来ていただけたらと思うんですが、まだまだ宣伝が足りないところがあるかと思っております。

3ページ、次のページをご覧くださいと思います。三重県ではですね、インバウンドの回復率は遅いですが、ホームページ、ご覧になっていただいております、多くの方に見ていただいております、スマホからはですね全国第1の視聴をしてもらってるわけでございます。データマーケティングも始めたところございまして、とにかく感覚で観光をやるのではなくて、データに基づいた観光をやるということ、そういった形で進めておるわけでございます。先ほど見ていただいた観光地域以外の3ページの右上でございますけれども、先般ミシュランから発表されました、ミシュランキーホテルというところで、全国に1000以上あります宿泊施設の中からですね、3つ星に対応する3ミシュランキーが1つ、これ全国で6つしかないわけですが、そのうちの1つに三重県のアマネムが選定されたということでございます。また、1つ星に相当します、1ミシュランキーにつきましては、ここにある2つの施設が選定され、いいところが結構あります。

観光に関しましてはやっぱりインフラ整備が大事だと思っております。インフラとは何か、宿泊施設でありそれから2次交通であり、そして案内であるというふうに思っておりますが、宿泊施設を作ってもらうための補助金というのを令和5年度から三重県は始めておるわけでございます。

そういったインフラで足腰を強くし、そして多くの観光客、国内外の観光客の方に三重県をはじめとしたこの地域をめぐってもらいたいということが、4ページでございます。これが年表書いてございまして、来年は万博がやって参ります。今年は熊野古道世界遺産登録20周年の年でございますけれども、多くの観光客の方に熊野古道に来ていただけてるわけです。来年は先ほどお話ありました、アジア競技大会・アジアパラ競技大会があります。また2033年には式年遷宮があるということでございます。その先にはリニア中央新幹線の名古屋以西を開業するというところでございますので、多くの方が来ていただくきっかけはあろうかと思っております。

訴えたいのは一番下でございます。こういった形でですね、この地域を周遊してもらいたいということですので、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございまして、順次これも同様にご発言をお願いします。2分30秒ということで、申し訳ありませんが、それでは岐阜県の古田知事からお願い申し上げます。

古田知事

観光誘客につきまして、私も特にインバウンドに力を入れているわけではありますが、コロナ禍の中でもですね、緩むことなく継続して、観光キャンペーンをやって参りました。その結果、今年に入りまして3月から3ヶ月連続で過去最高を記録しておりまして、年間の過去最高が2019年の166万人、インバウンドであります。これが今年上半期だけで92万人ということで、夢の200万人に手が届くかどうかということでございます。

特に最近の取組について若干ご紹介しますと、1つは昨年から今年にかけて、アジアをもう1回やってみようということで、台湾、面白い例としてはですね、台湾楽天モンキーズという野球球団がありますが、この野球球団と組んで、またそこには全国的な人気のある楽天ガールズというチアガールチームがあるんですが、そういった方々のキャンペーン力も借りて、かつ、台湾楽天モンキーズの試合にですね岐阜県DAYというのを設けまして、飛騨牛の試食会とか観光動画の放映でありますとかいろんなことをやりまして、非常に大きな反響を呼びました。

それからピーチ航空と連携して、香港、台湾のメディアを招聘しましたけど、特に関空利用者を積極的に誘致しようということで、アジアに向かってやって参りましたが、おかげで約350本のメディア掲載がございまして、今年の春節の休暇について、アジア最大級の体験予約サイトにおきまして、北海道、東京、大阪、京都に次いで、岐阜県が5番目に観光客に予約されているというようなデータもございました。

また国連との関係でいきますと、国連の世界観光機関が主催しております、持続可能な観光地づくり国際ネットワークでございますが、日本で初めて岐阜県がこれに参加をするということで、いろいろと連携をとっておりますし、また世界の持続可能な観光地100選にも、3年連続で選ばれているということでもあります。

同じく今年になりまして、国連の世界観光機関がベスト・ツーリズム・ビレッジということで、日本で6ヶ所ありますが、白川村が認定をされたということで、地域のコミュニティの価値観、ライフスタイルを保持する取組が評価されておるということでございます。

あとここに書いてございませんが、今取組もうとしておりますが、どうしても岐阜というと高山、白川郷に偏りがちであります。俗称「もう一泊キャンペーン」ということで、飛騨、高山、白川郷に行ったら、もう一泊してくださいということでもう一泊にふさわしいところはこんなところがありますよという事で、体験ツアーの提案を積極的に行っております。

もう1つ万博の活用ということではありますが、万博の国際交流プログラムっていうのをですね、いろいろと補助金をつけてやってるんですけども。私どもこれには積極的に応募しておりまして、8か国との国際交流を万博国際交流プログラムに乗っけてまして、今いろいろと取り組んでいるところでございます。

1県で8か国とやるっていうのは大阪府と同じく全国で一番最多になってはいますが、この機会も大い

に活用して、岐阜県の方に、さらなる誘客をやっていききたい、こんなことを考えています。以上です。

一見知事

ありがとうございました。それでは大村知事お願いいたします。

大村知事

はい。それでは愛知県資料をご覧くださいながら、お聞きいただければと思います。

まず資料の1ページでございますが、まずジブリパークでございますが、2022年11月にオープンをいたしましてその後順次ですね、もののけの里、そして今年3月に魔女の谷エリアをオープンして、今5エリア、フルオープンということでございます。多くのお客さまにですね、お越しをいただいております。

またさらに、慣れてきたら徐々に徐々に定員を増やして、また多くのお客さまに来ていただけるように取り組んでいければと思います。

2ページは、今年5月1日に愛知「発酵食文化」振興協議会を立ち上げさせていただきました。愛知県は酢、味噌、日本酒、漬物といった発酵食品がフルセットであるということでありまして、今から200年前に開発して酢が安くなったということで江戸の早ずしができたというのが歴史の事実でございますので、盛り上げていければと思います。なお、伊勢湾文化圏大体同じような感じの発酵食品文化がありますので、私どもこういった形で盛り上げて、予算も今年3000万円ぐらいある。それが落ち着いてきましたら、また岐阜県さん、三重県さんにお声掛けをして、この地域全体で盛り上げていったらいいかなというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それから3ページは、これはツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸ということで来年の9月に、9月25日~28日の4日間、日本最大の旅のイベントということで、通常は東京ビッグサイトで、各県さん出展していると思うが、これはこれまで過去2回、大阪、沖縄でやっていて、かねてから誘致をしております来年私ども愛知の「Aichi Sky Expo」を使って行うということになりましたので、また各県さんご参加いただいて、中部全体で盛り上げていければというふうに思います。

それから4ページが国際芸術祭「あいち2025」。来年でございますが、初めて芸術監督に外国の女性監督ということで、フル・アル・カシミさんをですね、彼女は国際ビエンナーレ協会の会長という方で、UAEの方でございますが、起用いたしまして名古屋と瀬戸で、「やきもの」にもフォーカスをあててやっていくということで、私大変楽しみでございます。

それから5ページ。来年愛知万博20周年でございますので同じ期間でイベントをたくさん打ってきたい。大阪万博ともサテライト的に連携をしながら、盛り上げていければというふうに思っております。ということでございますのでまた引き続きよろしくお願いいたします。以上です。

一見知事

ありがとうございました。

それでは河村市長よろしく申し上げます。

河村市長

はい。ありがとうございます。

名古屋は先ほどちょっと言いましたように、戦争前は京都みたいないいとこだっただけですけど、全部燃えまして、あと、戦災復興事業で広い道路ばっか作ってたわけですけども、名古屋の求心力がないということは、非常に皆さん迷惑かけとるかなと。だから消毒都市と、ある学者が言ってますけど、名古屋学院大学の教授です。路地をみんな壊して消毒してしまったという話でございます。それではいかんもんで、本物でないとなれば皆さん来られない。1つは、お城ですわね、国宝1号の、完全に図面があるやつ、この木造復元を必ず成し遂げますんで、エレベーターつけるのは何かね誤解ですわね文化とですわね。文化財は基本的に全く違うスタンドアロンではないけど、大事なもんでねまあそれはひとつ。

それから、熱田神宮がようやく、名古屋鉄道がやる気になってくれまして、いよいよ本物の草薙の剣がありますんでちょうど今、町長さんがお見えになっておるようですので、ちょうどこの斎宮のところで、古事記か日本書紀か忘れちゃったけど、剣をですわね、あの時はまだ草を薙ぐですから、天叢雲剣を借りてって、そのまま焼津の方へ行って、あと、名古屋のところで忘れてったとそれを、それが熱田神宮にあつて、いうこととございますのでいっぺんね、今後ちょっと相談しますから、セレモニーをやらせてもらったらどうだやあなたのところで、剣を借りてヤマトタケル役を誰がするか知らないけど。草薙って焼津の横に地名がありますけど、それはそれとして、熱田神宮へ持ってくる。いわゆる本物楽しさですわねこれ。ぜひ今日ここに来まして、それはもう本当やろうかなと。町長さん頼むで、と思っております。以上でございます。

一見知事

はい。ありがとうございました。

それでは最後に中野市長お願いします。

中野市長

はい。浜松市です。

お手元資料の1ページご覧いただきまして浜松の観光交流客数ですけれども、コロナで半減をいたしまして今少しずつ戻ってきているところでございます。特に去年は大河ドラマ「どうする家康」の効果もありましてだいぶお客様お越しいただきましたが、それでもまだコロナ前の水準までは戻っていない状況です。

そういった中で次の2ページですけれども今年は春から初夏にかけて、浜松のこれまた名産であります花をテーマにですわね、浜名湖花博2024を開催させていただきました、約100万人のお客様にお越しをいただいたというところでございます。

それから次の3ページに参りますと、インバウンドにつきましては、個別の都市間交流を有効に活用したプロモーションを展開をしております、ここには昨年、台北市との観光交流都市協定10周年ということとを記念しましてですわね、さらに相互誘客これを進めましょうという、協定を結ばせていただいたというようなところでございます。

ただ次の4ページをご覧くださいまして、浜松のインバウンドはもともとですね、中国の団体のお客様が大半を占めていたということもございまして、今のところまだ全然インバウンドについては戻っていただけていない状況であります。

ただそういった中にありましても次の5ページ、このところ大きく伸びておりますのが、マレーシアからのお客様であったり、オーストラリアからのお客様であったり、このような状況です。

次の6ページにありますとおり、やはり欧米豪のお客様、お越しいただきますとですね、大変消費をしていただく。お金を落としていただけるということもありますので、今後こういった方々を1つターゲットに取組を進めていきたいと考えてるところでございまして。

具体的には次の7ページにあります通り、今市内、国際ブランドのホテルがなかなかないわけでありましてけれども、既存のホテルを国際ブランドへのリブランドでありますとか、また、浜松に特色のあるもの、花であったらガーデンツーリズム、食であったらガストロノミーツーリズム、このような形で高付加価値の旅行者への対応、これを進めていきたいと考えているところでございまして。以上です。

一見知事

はい。ありがとうございました。

それぞれご発表いただいたところでございますが、ご発表いただいた内容などについて、さらにご発言をされる方ありますでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。はい。

ありがとうございました。

それでは私の方でまとめをさせていただきたいと思っております。それぞれご地元のですね観光名所、あるいは取組についてお話をいただきました。古田知事からは、白川郷それから高山に来られた方にもう1泊していただきたいというキャンペーンをやっておられるということでございますし、外国からの予約はですね、どんどん増えているということで羨ましい限りでございまして。またぜひ秘訣などを教えていただきたいと思っております。

愛知では、ジブリパークですね大村知事が招かれたジブリパーク、盛況であるということそれから発酵文化につきましてですね、東海地方で一緒になってやれないかという話。

三重県にも実は伊勢に豆みその文化があったりいたしますので、またご一緒させていただきたいと思っております。またツーリズム EXPO ジャパンをですね、東京以外で選ばれてすごいことだと思っております。しっかり参加をさせていただきたい。また河村市長からは、三種の神器ですね草薙の剣に関しまして、下村町長にですね、非常に熱心な呼びかけをしていただきましてありがとうございます。ぜひお話し合いを進めて、いい企画ができればというふうに思っております。また中野市長からですね、観光客戻りきってないということ、やっぱり全国そういう状況だと思っております。これからですね、観光客を戻していくためにもですね、この地域でしっかり連携をしていきたいと思っておりますし、ご指摘をいただいたような体験型の観光、それからガストロノミーツーリズム、これはこれからの主流になってくると思っております。私ども三重県としても力を入れていきたいと思っております。

各地、それぞれ観光行政を展開しているわけでございますけれども、やはり一本の矢よりは三本矢、みんなで連携をしながら進めていくのが、観光客を誘致する秘訣だと思っておりますので、下村町長含

めてですね、観光をしっかり振興していきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

以上のような取りまとめをさせていただきました。これでご提案いただきました議題につきまして、それぞれの説明は終了でございます。よろしゅうございますでしょうか。

ありがとうございます。

それでは続きまして昨年度の会議の合意事項につきましては、1枚紙を配付をさせていただいております。これをもって報告にかえさせていただきたいと思います。

また最後にですね、それぞれ各県市のイベント等のPR資料を置かせていただいております。後程ご覧いただければと思いますが、この点につきまして、特段ご発言ございますでしょうか。よろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。

以上をもちましてですね今年度の東海三県二市知事市長会議につきましてはすべての議題が終了いたしました。ご報告をいただきまして、ありがとうございます。私の司会の不手際がございましてちょっと時間が超過をいたしまして大変申し訳ございませんでした。

次回への反省となりますけれども、駆け足の議事進行でございました。次回はもう少し時間をしっかり取ってやっていきたいと思っております。またご議論いただく時間があつたほうがいいと思っておりますので、次回は時間管理私もしっかり対応させていただきたいと思っております。

それでは事務局に戻します。

事務局長

はい。ありがとうございます。

令和6年度東海三県二市知事市長会議をこれで終了させていただきます。